

## 統計

## 世界の石炭生産高

(単位: 1 000 M. T)

国	別	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980
世界計		2 250 600	2 372 200	2 434 500	2 535 000	2 632 000	2 770 000	...
ヨ	イギリス	109 218 235 973	127 789 250 125	122 202 240 639	120 674 233 604	121 695 231 548	120 637 231 235	128 169 239 264
ロ	スウェーデン	10 452 461 4 965	10 817 422 4 813	10 696 525 4 632	12 072 455 4 420	12 050 459 4 376	11 496 310 4 464	... 284 ...
ツ	東ヨーロッパ	594 601 7 109	539 598 7 320	458 587 7 116	348 511 7 368	85 471 7 418	50 435 7 500	... 391 ...
パ	チェコスロヴァキア	162 004 28 179 473 374	171 625 28 119 484 675	179 303 28 266 494 377	186 112 27 962 499 768	192 622 28 295 501 536	201 004 28 463 502 000	193 121 28 198 ...
ア	中国	430 000	470 000	480 000	550 000	618 000	663 000	*610 000
ジ	北朝鮮	2 934	3 141	3 236	2 156	2 884	2 750	...
ア	日本	33 000	35 000	40 000	40 000	42 000	...	...
	韓国	15 298	17 585	16 428	17 320	18 056	18 210	...
	台湾	20 333	18 999	18 396	18 248	18 991	17 644	18 027
	インド	84 080	95 890	100 870	100 294	101 539	103 450	*110 000
	ベトナム	4 000	5 320	5 500	6 000	...	...	...
北アメリカ	カナダ	17 784 539 362	21 710 575 901	20 798 598 087	23 042 606 262	25 419 593 243	28 008 703 750	*36 000 753 000
南アメリカ	ブラジル	3 181 1 403	2 817 1 434	3 256 1 245	3 864 1 236	4 284 1 051	4 644 889	... ...
アフリカ	南アフリカ(共)	65 018	69 440	76 453	85 579	90 356	*104 000	*115 000
オセアニア	オーストラリア	57 972 2 420	60 696 2 276	67 820 2 315	78 239 2 208	79 879 1 954	83 141 1 725	*100 000 1 924

出所: 西ドイツ連邦統計局「Eisen und Stahl」1980年のアメリカは米国商務省資料。

\*「MINING」annual review

## 編集後記

▶昨年4月に特集号編集委員会で企画立案が始められて以来、1年以上経過してようやく高強度薄鋼板特集号をお手許に届けることができました。巻頭言でも述べられているように、自動車の燃費低減をはじめとする社会的要請を背景に、今や優れた高強度薄鋼板の開発と実用化が世界に先がけて推進されています。昨年の春に東京で開催された薄鋼板とその利用に関する国際学会には、わが国の技術動向への世界的関心の深さを反映して、世界12ヶ国から予定員数の150%もの参加者がありました。私はたまたま最近、米国デトロイトでのSAE国際学会に出席する機会を得ましたが、薄鋼板をはじめとする自動車用鋼材に関するセッションでは、わが国の研究者の発表件数が全体の過半を占めており、わが国鉄鋼技術のパワーの大きさを感しました。

このような情勢を踏まえ、日本鉄鋼協会としても講演大会討論会、西山記念技術講座、Trans. ISIJ 特集号等に最近つぎつぎにこの問題を取り上げましたが、

本特集号は解説等を含めて論文42、総頁350を擁し、高強度薄鋼板の製造・利用技術に関する最新情報の集大成ということができましよう。ここに集められた多数の優れた論文はわが国のみでなく広く世界の読者に読まれて、今後の発展のための大きな原動力になると信じます。ご多用中、解説・展望・技術資料を執筆して下さった各位に深謝するとともに、進んで論文・技術報告を投稿された方々に謝意を表します。

なお、編集を進める過程で、投稿規程に準拠して、各社の商品名、商標、記号等はそれらが一般化している特別のケースを除き使用しないようお願いしました。この問題は関係委員会等でもよく議論されますが、要は「学協会誌を宣伝の場にしない」というモラルの問題と考えます。このような観点からみると、講演大会でも実験条件など技術の内容を示さないで、成果のみを誇示するようにみえる研究発表があるとの指摘があります。会員各位のご配慮をお願いいたします。(O.M.)